

9

公開実用 昭和 60— 153432

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U) 昭 60— 153432

⑫ Int. Cl.⁴
F 21 V 21/36

識別記号 庁内整理番号
A—6908—3K

⑬ 公開 昭和 60 年 (1985) 10 月 12 日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 昇降照明装置

⑮ 実 願 昭 59— 41301

⑯ 出 願 昭 59 (1984) 3 月 22 日

⑰ 考 案 者 宮 内 学 門真市大字門真 1048 番地 松下電工株式会社内
⑱ 出 願 人 松下電工株式会社 門真市大字門真 1048 番地
⑲ 代 理 人 弁理士 竹元 敏丸 外 2 名

明 細 書

1 考 案 の 名 称

2 昇 降 照 明 装 置

3 実 用 新 案 登 録 請 求 の 範 囲

(1) 天井に取り付く固定器と、該固定器より巻取・巻戻自在に垂下されたワイヤにより升降自在に吊下された升降器とより成り、ワイヤの素線の一部を導電性の高い良導体で構成したことを特徴とする升降照明装置。

4 考 案 の 詳 細 な 説 明

本考案は升降照明装置に関するものである。

(背 景)

一般に升降照明装置は高所に設置された灯具を保守点検のためにワイヤで吊り下げ升降するものであり、第1図に示す如く天井に固定された固定器(1)よりワイヤ(2)で升降器(3)を升降自在に吊下し、升降器(3)に灯具(4)を取り付けたものである。然して最上昇位置では固定器(1)及び升降器(3)に設けられた接点(5)(6)が接触し灯具(4)へ電源が接続される。しかしながら、升降器(3)の内で升降器(3)と電源

(1)

1 線(7)が接触した場合、ワイヤ(2)を通じて地絡し、
2 ワイヤ(2)がその固有抵抗により発熱・溶断する恐
3 れがあった。

4 (考 案 の 目 的)

5 本考案は上記の点に鑑みて為されたもので、昇
6 降器(3)の内で漏電した場合にワイヤ(2)の溶断を防
7 止し升降器(3)の落下を防ぐことを目的とする。

8 (実 施 例)

9 第 2 図は本考案の実施例を示し、全体は第 1 図
10 に示すものと同様の升降照明装置で、ワイヤ(2)の
11 端を拡大して示したものである。ワイヤ(2)は多数
12 の素線(8)を撚り合わせた子なわ(9)を更に複数本撚
13 り合わせて成るもので、中心(10)は良電気伝導体で
14 ある銅、黄銅又はアルミニウム等の素線で構成す
15 ると共に、周の子なわ(9)はステンレス等の鋼の素
16 線で構成したものである。

17 この様にして、万一升降器(3)の内で漏電した場
18 合、升降器(3)に流れた電流はワイヤ(2)の中心(10)を
19 流れて固定器(1)へ致り接地線(11)を通じて接地され
20 る。

1 (考案の効果)

2 本考案は以上の様に構成され、昇降器(3)を吊下
3 したワイヤ(2)の素線(8)の一部を導電性の良好な良
4 導体で構成したので、昇降器(3)への漏電電流を効
5 率よく固定器(1)へ伝導し、ワイヤ(2)の発熱を防ぎ、
6 熔断による昇降器(3)の落下事故を防止することが
7 できる。

8 4 図面の簡単な説明

9 第1図は従来例を示す正面図である。第2図は
10 本考案の実施例を示す要部斜視図である。

11 (1)…固定器、(2)…ワイヤ、(3)…昇降器、(4)…灯
12 具、(5)(6)…接点、(7)…電源線、(8)…素線、(9)…子
13 なわ、(10)…中心、(11)…接地線。

14

15

実用新案登録出願人

16

松下電工株式会社

17

代理人弁理士 竹元敏丸

18

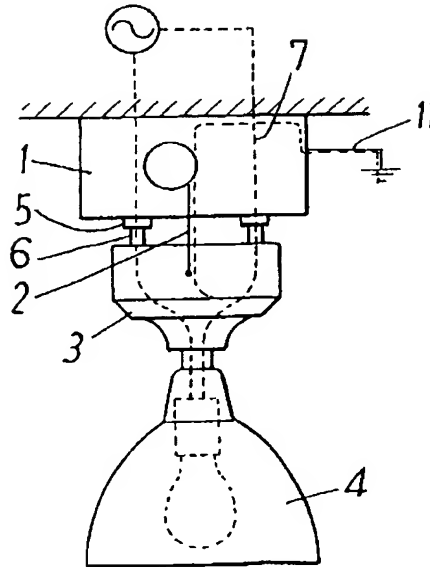
(ほか2名)

19

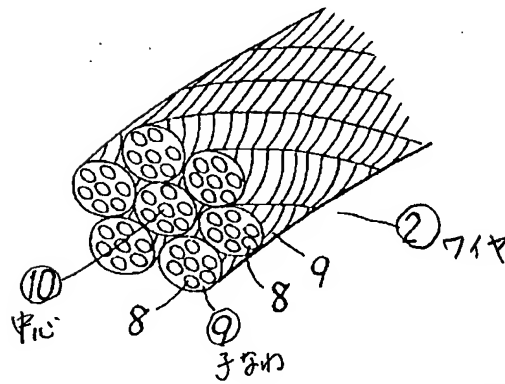
20

公開実用 昭和 60—153432

第 1 図



第 2 図



255

実用 60-153432

代理人 井理士 竹 元 敏 丸 外 2 名

58-236C1443